

令和元年度第3回長野市災害復興計画検討委員会

日 時：令和2年2月5日（水）午後3時30分から午後5時15分まで

場 所：第一庁舎5階 庁議室

出席者：委 員 長野市災害復興計画検討委員会委員名簿のとおり

（北村委員代理として長野市商工会議所徳武事務局長出席）

事務局 倉石総務部長、酒井企画政策部長、清水財政部長、増田地域・市民生活部長、樋口保健福祉部長、小林保健所長、北原こども未来部長、宮尾環境部長、高橋商工観光部長、倉島文化スポーツ振興部長、倉島農林部長、小林建設部長、羽片都市整備部長、伊熊会計局長、竹内教育次長、永井教育次長、西澤上下水道局長、島田消防局長、鎌田危機管理防災監、望月公有財産活用局長、丸山復興局長、復興推進課職員

1 開会

2 委員長あいさつ

3 議事

【事務局】

長野市災害復興計画（素々案）について 別紙資料説明

【千曲川河川事務所】

信濃川水系緊急治水対策プロジェクトについて 別紙資料説明

<質問・意見>

委員より事前質問の提出があり、その内容について事務局から説明

<質問①>各地での縁側的な集いの場について、全体数、運営の仕組み（事業主体、資金面）など把握しているか。

【事務局】

豊野地区のぬくぬく亭など拠点を設けて活動している団体や、松代でサロンを開いている地域の方々など、各地区で様々な活動がありますが、主体は民間団体や地域団体であり、市として詳細は把握していない。

<質問②>多様な動きがあり被災者がどこを信じていいか疑心暗鬼な状態。市がお墨

付きを与える仕掛けが必要ではないか。

【事務局】

支援団体やNPOの活動は、善意で自発的に行うものなので、市がお墨付きのような形を与えるのは難しいと考えています。ただ、善意の活動を騙った詐欺行為など悪質な事例がある場合には、住民に注意喚起をしていきたい。

<質問③>支援制度について支所ベースの相談窓口以外に、アウトリーチ的な情報伝達機会はあるのか。

【事務局】

仮設住宅やみなし仮設等にお住まいの方などの支援や見守りのため、生活支援・地域ささえあいセンターを設置し、戸別訪問をしています。支援が必要な方にはここで直接情報を提供するとともに、今後、「復興だより」の発行などで必要な情報を直接届けることを考えています。また、心や体、法律などの専門的な相談会も市として開催したい。

<質問④>防災力の向上として大規模災害に対してどのような反省があるのか、委員と共有してほしいが、資料を出す予定はあるか。

【事務局】

現在、被災地域を中心に、災害発生時の避難行動と情報についてお聞きするアンケートを実施しているほか、市の内部でも災害対応の課題抽出や職員へのアンケート調査を実施し、3月末を目標に災害対応の検証を行っていく。復興計画と並行して進めており、計画への記載は難しいと思うが、結果は委員の皆さんと共有したい。

<質問⑤>開発制限、宅地の整理等をこれまでどう考えてきたのか、今後の方針は検討しているのか。

【事務局】

現在、国土交通省にて人的災害が頻発する地域について、災害危険区域等に対して開発許可等についての規制強化を検討している。一方、地域の土地利用について、歴史的・文化的な成り立ちに基づき形成されてきているという実態であり、被災箇所であっても直ちに居住地として、不適格となることはないとされている。このため、今後の国の動向や地域の皆様の御意見、復興計画を踏まえ土地利用の在り方について検討していきたい。

<質問⑥>宅地のかさ上げや住宅の移転など、住民の財産と命について住民任せでいいのか。どう検討していくか。

【事務局】

住民の命と財産は何より大切であり、市としては治水の安全度を高めることで、地域に住み続けられるようにしたいと考えている。千曲川流域全体で取り組む緊急治水対策プロジェクトが始まるので、堤防強化や河川の流量確保に向け、国・県・市で連携して取り組んでいきたい。

<委員長>今の事務局の回答に対して何かご意見ありますか。

<委員>都市計画の制限が国から出されるのはいつで、長野市からはいつ頃検討していくことが可能か。

<羽片都市整備部長>2月の中旬位に国から示される。その後市としても検討していきたい。

<委員>情報管理、災害情報に関して、どのように情報を収集し、管理し、伝達できて、何ができて、結果どのようになったのか、また、何ができなかったのかを明らかにする必要がある。日程的に3月末の復興計画には間に合わないということであるが、私は、それに関して賛成で、急いでアーカイブする必要はない。しっかり、きちんとした資料を作成して公表すべき。12Pの避難情報等の表がどういう位置づけになるのか。また、情報伝達手段としてLアラート、ホームページ、SNSなどと書かれているが、これらのことは実際に何が起きて、その時ホームページが役立ったか、見れなかった時があったのかというような事実に基づいて検討されるべき。復興計画でそのことに触れるのは、時期尚早のような気がする。

<鎌田危機管理防災監>2月に入ってアンケートを送付してある。今後、回収・検討し、内容を取り入れた形で進めていく。時期尚早かもしれないが、今回の計画の中に盛り込んでいく予定。

<委員>質問項目に情報伝達の項目が無かったため、別に調査すると思った。また、市役所の中でアンケートするということがあったので、今回のここに載せるのはどうかと思ったものである。現在、ICTを使ってどのように安全・安心を担保するかを研究している。長野県庁のSNSで「台風19号災害長野県被害」が、今回の災害で活躍した

と、東海大学の研究発表の中にあった。64000 ツイートもある。次回、資料提供する。情報提供する長野市のホームページはどのくらいきちんと動いていたのか、見えにくいところはなかったか、情報システムの担当として助言できるところがある。長野市防災システムはどのように動いていたのか、何か不都合が生じなかったか、県との連携はスムーズだったか等調査して公開して欲しいと思う。

<鎌田危機管理防災監>取り入れて検討していきたい。

<委員>区長会として河川の水かさがどのくらいきているのか、タイムリーに把握できていなくて、住民に情報提供できなかった点について反省している。災害の復旧状況が現在地区内でどうなっていて、どういう要望があるのか。また、伝達方法がどういう状況で、どういう問題があるのか、また、どうすればよかったのか、2月中に区長会でまとめたいと思っている。それと復興計画の地区別計画と連結していくことが大切と考える。

<委員>多くの住民が災害で資金のない中、建て替えるか否か悩んでいる。生活に対して不安を持っている。再建していくにはどうすればよいか。安心・安全が想像されるような計画を市の方で考えていただきたい。住民参加ではなく住民主体で、もう一度住民集会を開いてほしい。復興計画の内容について、15P計画の位置づけ 市街化区域に指定されているところまさに床上浸水した。都市計画の見直しが復興計画に入っていない。しっかり盛り込んでもらいたい。20P-2被災者の支援に対する情報は迅速にお願いしたい。また、り災証明を出した資産税課は住居情報を持っていることから、市、支所から直接被災者へ紙で情報を送っていただきたい。30Pだが、防災無線だけではなく、広報車による広報活動をいれていただきたい。34P災害現場での区長の判断が重要。今回の災害では、ゴミ一つとっても判断の遅れが混乱をきたした。現場での対応が即できるようにお願いしたい。また、災害時にはボランティアではなく、建設業者との連携をして、大きな災害にならないように配慮して欲しい。30Pの農業経営のところだが、農業政策課の中で、りんごとブドウの産地、豊野・長沼を農協に任せるのではなくて、果樹の振興を中山間地ではなく、平地農村にもぜひ振興策という形で盛り込んでもらいたい。国・県他市町村との連携だが、豊野地区は内水問題に困っている。浅川は県の問題ではない。雨水排水が浸水問題となっている部分もあり、市は雨水渠事業として捉え、市が中心となって取り組んでいただきたい。地区計画の推進と、地元との協議についてはゆっくり時間をかけていただきたい。最後に、ぬくぬく亭2月末で出ていかなければならなくなった。ぜひ、公共施設の駐車場をお借りしたい。

<委員>地区別計画の篠ノ井地区の農業・商工業の被害状況が書いていない。特に農

業は他地区も書いていない。長沼は果樹等の内容が書かれていない。篠ノ井地区も河川敷は「もも」を中心として栽培していたものが、土砂でやられてしまっている。復興計画で重要視していることは、被害よりも復興についてなのか。

【事務局】 次回の計画の中で記載していく。

<委員> 松代地区は、国・県・市河川の関係で意見交換している。必ず出てくるのは河川の話。ここが何とかなるという見通しが立たないと、どうしようかということになってしまう。復興に行く前の段階が一番大切。なぜ、いま調整中になっているのか。調整中よりも今動いているものがなぜ書かれていないのか。

【事務局】 治水は大切なこと。そこには住めないのも当然。治水対策は千曲川の緊急治水対策プロジェクトが公表になった経過があり、現在調整中である。今後、できるだけ細かく記載していきたい。

<委員> 次回は2月の終わりである。県の河川等をもっと早くやっていただきたい。見えるところから載せていった方が良いのではないか。

<建設部長> 堤防改良事業で着手している事例もある。応急復旧対策は早速やっている。今後は災害査定をした中で、できるだけ早く取り組んでいきたい。国・県のほうに積極的に要望していきたい。

<委員> 河川を整備していくようなことが、報道で盛んに出ている。P27の河川整備に記載があるが早急にやっていただきたい。軻良根古神社のところも酷くやられている。長沼で決壊が無ければ、篠ノ井中が水びたしになっていた可能性もある。頑丈な堤防をお願いしたい。

(2) 遊水地や河道掘削とあるが、河道掘削は10年ほどやったが、中洲がこここのところとても大きくなっている。土砂がたまっている証拠である。しっかり取っていただきたい。

<委員> 安全・安心の担保が無ければ、生業も賑わいもない。千曲川河川事務所の堤防の説明で完全なものではないという説明があった。越水する時間を伸ばすということだが、川側はコンクリートで覆ってあるが、堤内の所の真ん中部分は、コンクリートで覆われていない。一つに見た目は大切だと思う。長沼の人口流出を防ぐには、頑丈な堤防を見せる必要があると思う。そういうことを堤防対策に盛り込んでいただきたい。

<委員長>色々なプロジェクトや、千曲川改修の中でも、色々な工法があると思うが如何か。

<木村千曲川河川事務所長>河道掘削、軻良根古神社の堤防補強の話もあったが、堤防については最重要対応ということで、今年の出水期までに、現在、応急対応となっている堤防を本格的に復旧させる。先週 30 日に補正予算もついたので、速やかに進めていきたい。篠ノ井地区については来週個別に説明させていただく予定。河道掘削については、岩野橋上流で鋭意やっている。測量をして現状確認しながら、今後必要な場所はしっかりやっていきたい。河道掘削は砂利採取とも連携しながらやっていきたい。また法裏の堤防補強だが、こちらも堤防地調査委員会でご審議いただいた内容を示しているが、更なる検討を行っているところである。全国で 140 か所決壊、国土交通本省で堤防強化の方向性を検討しており、その結果を踏まえしっかり対応していきたい。

<委員>河川整備について、国・県と連携してということであるが、古里地区は浅川の内水対策が非常に重要なところである。駒沢川、新田川その辺の支川の内水氾濫も住民は恐れているところあり、県管理ではあるが、市も当事者意識をもってしっかり取り組んでいただきたい。

<委員>今日の素々案ざっくりとしているが、各地区の意見交換会の内容が次の時に反映されてくるということで良いか。

【事務局】一番多かったのが治水対策の話、情報伝達の話、避難所の対応なども多くあった。その部分については、今後の方向性についてお示しした。治水対策としても今後盛り込んでいけるところは方針として可能な限り入れていきたい。ご覧いただければわかるが、方向性をお示ししたものである。

<委員>ロードマップが肉付けされるかということか。

【事務局】ロードマップについても、治水の事業含め再度細かいところ、具体的な実施期間なども含め、次回お示しする。

<委員>検証だが、これはアンケートではなく、実際に現場の区や自治防災会で色々な課題があるので、こういった内部での検討ではなく、各地区の課題・問題点整合する中で検証して欲しい。意見交換会は全体集会でやったが、今後もそういった協議が進めていけるのかお聞きしたい。

＜鎌田危機管理防災監＞今回のアンケートの中には、地区の皆様の声は取り入れてないが、個々のアンケートの中に自由記載があるので、そこに区長さんなどの意見も書いていただくというのはどうか。

【事務局】今後の地区との協議とのことだが、復興計画は方向性を示すということで、直近でやる部分で記載できるところもあるが、具体的にどういう風にしていくかというものがお示しできない部分もあるので、中長期的な計画で今回お示しできない部分は、継続的に協議していきたい。

＜委員長＞災害の検証は、危機管理防災課の方に載せるということか。

＜鎌田危機管理防災監＞災害の検証については、危機管理防災課の方でアンケートの結果をまとめ冊子にして皆様にお示ししていきたい。

＜委員長＞浸水区域図、浸水深、各地区のどんな風に避難したか、どこまで水がいったかなど、あまり細かいところまでではないが、指定避難所や自主避難所はここで何人避難したかなど図が入っているものが分かるようなものがあればより良いと思う。3月末までに資料を付けていただきたい。

【事務局】9 P 上段に被害の状況として浸水エリアも入れる予定はある。被災の状況についてもう少し図とか写真は載せていきたいと思っている。避難所の開設情報とか 12 P の方にも掲載予定であるのでよろしくお願ひしたい。

＜委員長＞場所と数字が一緒に見られればもう少し良いと思う。

＜委員＞篠ノ井地区住民自治協議会で被災の状況調査中である。水がどこから入ってきて、どこへ流れていったのか、地図へ落としてみたいと思っている。民家へのくらい水が入ってきたとか。

＜委員＞地区防災計画の作成支援とあるが、昨年、防災マップが長野市で作成して全戸配布された、千年に1度想定であるが、9月1日の防災の日に出前講座していただいた。100年に1度の場合どこに逃げればよいか聞いたら、100年に1度の浸水ラインより外に逃げてくれと言われた。この経験がとてもよかったと思う。北部レクリエーションパークまで逃げるのは大変。100年に一度の外に古里小学校があったことから、そこに避難させてもらった。逃げる場所も少なくなり、避難所が満杯になってしまうのではないか。こういったことをしっかりアピールしてそのことを計画に盛り込んでいただ

きたい。

<鎌田危機管理防災監>100年に一度のラインが入っているマップを配布した。100年に1度のラインの説明も出前講座でかなりの件数を実施したが、来年度にむけてハザードマップの見方等も説明できるようにやっていきたい。

<委員>19P復興に向けた現況と課題の言い回しをもう少し優しくした方が良く思う。堤防や安全に住める環境が大事なのはその通りだが、人は不安を抱えて生きている。不安不満それを吐露する場がないと、人間駄目になる。1人1人に寄り添うような支援が必要というような書き方をして欲しい。状況に応じたというような客観的ではなく。

20番の施策 生活支援・地域支えあいセンターだが、地元で根差し、被災した民生委員や福祉ワーカーなどが活躍していただく形をとることが望ましい。実際に被災している方とそうでない方とは大違いである。共感できるような方をうまく活用できるような形が良いと思う。人数や回数が多ければ多いほどが良い。

日本の処遇のレベルとしては、避難所のレベルが低い実態が見受けられた。市の想定がそこまで、想定していなかったのは分かる。次回に備えて避難所の運営の在り方をもう少しきちんと検証して運営について部会等つくって検証すべき。

被災者の立場から言うと公平公正がなかった。平等に物が行き渡らなかったようだ。みなし仮設と建設仮設とでは用意されたものが違った。みなし仮設や自宅の2階で暮らしている皆さんに生活物資や情報が届かなかった。そのような問題をどのように解消するのか、毎日の避難所の暮らし方を安定させるという意味でとても重要と思われる。

<委員>介護施設の方とか障害を持っているお子様が避難所に入っていくとパニックになったりする。そういった方たちをもう少しこじんまりと非難させるような場所があったら良かったと反省している。松代で言えば、体育館は開けてもらったが、ここはそういった障害をお持ちの方や高齢者の方の避難所だよというような指定があると助かる。

<委員>避難所に関連して、北部レクリエーションパーク、古里小学校で長い期間過ぎされた。北部レクリエーションパークは当初避難所想定に無かった。最初は備品が無かった。4・5日経ってからはそろってきたが、今回の災害の避難所には緊急用品を入れておくような倉庫を造っておいてもらいたいと思う。

<委員>ようこそ市長室で言ったが、市の施設だけではなく県の施設も避難所にできないか提案した。様々な福祉施設等があるので、ぜひ検討すべき。

避難の範囲が豊野地区全域ということで、全員が避難しなければならないということで、大勢が集まり避難所がパニックになった。避難所の範囲も検討して欲しい。

<鎌田危機管理防災監>範囲を指定するというについては、千曲川沿線の各地区にエリアメールや無線で避難指示を流したが、豊野地区全域になると今回の小中学校では足りないということで、北部レクリエーションパークを急遽追加したものである。地域限定のエリアメールは流せないため、今回のようになってしまったが、技術が発達すれば、エリアごとのメールも可能となるかもしれない。

<委員>西は共和小学校、篠ノ井体育館、また東は南運動公園が避難所指定されていたが、千曲川沿線の横田、塩崎、御幣川などの地域は、夜非難するとしても距離があり難しい状況があった。車も混雑していて避難所に入っていけなかったとも聞いている。篠ノ井支所2階に避難所を開設してもらって御幣川の住民720名ほどが避難できた。民間の会社をお願いをして避難場所にしたらどうかという意見もある。

<委員>国・県・市がこうやりたいという計画であると思うが、住民主体の意見をを入れていく必要があると思うので、今日、持ち帰って意見を聞いてきたいと思う。後日、それを反映出来るような機会をぜひ設けていただきたい。

<委員>42Pスポーツ大会の誘致とあるが、今後誘致する施設の整備計画もぜひ入れていただきたいと思う。夏場の冷房施設として、ホワイトリングのメイン会場しかなく、大会を誘致するということから言うと、それがマイナスになっている部分もあるので、お願いしたい。受け入れ環境の整備というところで復興計画の中に入れていただけると賑わいの創出につながる。

<倉島文化スポーツ振興部長>冷房は確かにホワイトリングのみであるが、国体等も控える中でどのように整備していけばよいのか考えていきたい。

<委員>現在、長野市農業公社で被災された農家にアンケートをやっている。農業委員会としても被災地から離れる、農業をやめるということも聞いている。そういった農地を荒らさないように、耕作をしていただくということで集計を待っている。今後とも温暖化により昨年のようなことがあるのではないかと、河川敷の農地は毎年水がつくのではないかと心配があるため、河川敷は優良農地ではあるが、私たちはできるだけ堤内の農地を斡旋して、少しずつでも移動をお願いして安定した農業経営ができるように形を築いていただきたいと思っている。農業関係ロードマップを見ると、主な取組は、以前から出ているような項目が多いが、被災された農家の皆さんが、復興のどのような

ことをうまく新たな事業として取り入れて、農家が良かったと思えるような施策を取り入れていただけるとありがたい。

<委員>被災企業の支援を粛々に行っている。グループ補助金については、グループを作って第一弾をこの前申請したところ。会員企業以外の所で漏れがある可能性が有るため、別の委員も言ったが、り災証明の情報をもとに事業所へ周知するようなことについてご協力をお願いしたい。

<委員>豊野商工会の会員が沢山被災している。千曲川河川事務所の所長も見えているが、信濃毎日新聞に信濃川の河川改修が完成するのが12年後と出ていた。ここの計画では概ね5年とあるが、河川は下流域から整備するというのが一般的で、上流からどこまで工事が進められるか心配である。商工会会員は、住民の皆様と全く一緒に、河川の安全・安心が担保されなければ、一歩前に進めないということである。よろしくお願いしたい。

<木村千曲川河川事務所長>緊急治水対策プロジェクトは、上流域、下流域一体となつて緊急的に取り組んで行くための計画である。今後、5年だけではなく更に先の中長期的な対策も検討のうえ取組を進めていきたい。

4 その他

【事務局】

第4・5回長野市災害復興計画検討委員会の日程説明

5 閉会